

# 知床財団 Annual Report 2019

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、  
世界遺産知床の自然を守り、よりよい形で次世代に引き継いでいきます。  
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、  
人間が自然と親しみ調和していく社会の発展に寄与します。

## contents

はじめに	03
知床財団の12ヶ月	04
「知る」活動	06
「守る」活動	08
「伝える」活動	10
事業収支	12
いただいたご支援	13



## はじめに

2019年度は、知床を「知り、守り、伝える」活動をさらに発展させるための活動指針である「知床財団10年プロジェクト」がスタートした年でした。

わずか数人で始まった知床財団も近年は約50名の職員で活動しています。これは、世界自然遺産登録などを通じて知床のことを知れば知るほど解決すべき課題が顕在化し、私たちが受託する業務も増え続けてきたからです。

しかし、私たちは旧態依然とした考え方や手法にとどまっているわけにはいきません。これまで現場で培ってきた経験や蓄積した知見を生かしながら、絶えず新たな気持ちと発想で職務にあらなければなりません。受託した業務を確実にこなすだけでなく、知床財団独自の事業や調査研究活動を安定的に進めていくことも知床を守るための大切な使命です。

そのためには毎年の活動を振り返ることによって、私たち自身のスキルと知床財団のチーム力を向上させなければなりません。

2019年度も多くの個人・企業の皆さまからご支援をいただきました。これらは私たちにとって大きな励みであり、大きな支えになっています。この報告を通して地域や関係する皆さんに私たちの活動の一端をお伝えすることができれば幸いです。

理事長 村田良介



10年プロジェクトは、知床財団が10年後にめざす姿を明らかにした私たちの羅針盤です。「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現■」、「野生動物と折り合いとつけていく地域社会の実現■」、「しれとこ100平方メートル運動の推進■」及び「自主・自立の旗を立てる■」の4つの大きな柱から成っています。

# 知床財団の12ヶ月 ~2019年度の活動・出来事から~

2019

4月

- 守る 市街地を囲う電気柵の立ち上げ
- 伝える 森づくりの道・開拓小屋コースOPEN  
Shiretoko Bread&Coffee Fes mini 開催
- その他 辞令交付 知床五湖フィールドハウス 夏期OPEN



5月

- 知る シカのライトセンサス
- 伝える 北海道キャンピングフェアに出店 地元学校でのクマ授業  
知床自然センターにゴールドワインが出店 会報誌SEEDS春号発行  
ルサフィールドハウスOPEN



6月

- 知る 知床岳巡視 ヒグマ調査用ヘアトラップの巡回開始(～10月末)
- 伝える ボランティアと森づくり  
ゴールドワイン共同プログラム「HOROBETSU HIKING」
- その他 知床五湖ヒグマ活動期スタート



7月

- 守る しれとこ100平方メートル運動地のササ地掻き起し作業
- 伝える しれとこ100平方メートル運動地のポンホロデッキを設置 ルサフィールドハウスで「ルサカフェ」実施  
会報誌SEEDS夏号発行



8月

- 知る 知床半島先端部シーカヤック巡視
- 伝える 旭山動物園の環境保全につながる販売イベントに出展  
知床しゃり「楽市・楽座」イベントに出展 第40回知床自然教室



9月

- 知る サクラマス遡上調査
- 守る 第16回ダイキン工業ボランティア
- 伝える 北海道大学獣医学部実習受け入れ 酪農学園大学実習受け入れ  
「しれとこ産業まつり」イベント出展



10月

- 知る シカのライトセンサス
- 伝える 第2回知床アウトドアフィルムフェス2019  
会報誌SEEDS秋号発行
- その他 知床自然センターの外構工事開始  
知床自然センター・鳥獣保護センターに光回線届く



11月

- 守る 森林再生専門委員会議 森づくり・大型苗移植
- 伝える 知床五湖遊歩道の補修工事開始
- 第25回森づくりワークキャンプ開催



12月

- 知る 羅臼でトド調査開始(～2月)
- 伝える クマ端会議 羽臼初開催



2020

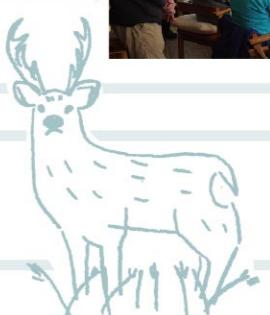
1月

- 守る エゾシカ個体数調整のための冬期捕獲事業スタート(～3月)
- 伝える ホロベツ＆湯ノ沢スノーシューコースオープン 会報誌SEEDS冬号発行



2月

- 伝える 知床流氷フェスでナイトウォーク実施 斜里でクマ端会議  
ゴールドワイン共同プログラム「ICE WALKING」  
JICA研修受け入れ 東海大学実習受け入れ



3月

- 守る 第17回ダイキン工業ボランティア
- 伝える 知床自然センターの「四季・知床」最終上映  
KINETOKOに4K、5.1サラウンドに対応した新機材導入



## THE NORTH FACE / HELLY HANSEN 知床店がOPENしました

2019 Big News

2019年5月17日、知床自然センター内に道東で初となる「THE NORTH FACE/HELLY HANSEN 知床店」がオープンしました(運営：株式会社ゴールドワイン)。

知床国立公園の玄関口に位置する知床自然センターでは、知床のフィールドをより深く知り、楽しむための展示物の工夫やスタッフによるレクチャー等の実施に取り組んでいます。今回のテナント出店は、今後知床自然センターを訪れるお客様に対し、知床のアウトドア活動やフィールドについての情報発信を強化する上で心強いパートナーの誕生であります。店内には北海道産ミルクを使ったラテに定評があるBARISTART COFFEEも併設されました。

「アウトドアを、文化に。」の理念のもと、今後はゴールドワインと様々な共同プログラムを企画・実施し、知床国立公園の魅力向上に努めています。



## 知床自然教室は 40周年を迎えました

2019 Big News

子ども達が親元を離れ、1週間もの間ヒグマの暮らす森で寝泊まりする知床自然教室。この活動はしれとこ100平方メートル運動が始まった3年後の1980年に、知床の自然やこの運動を次世代に伝えいくために始まりました。その自然教室も2019年で40回目を迎えました。自然教室がきっかけとなり、現在知床財団で働くに至った職員もいます。40年という月日を経て、自然教室の舞台となるポンホロの地や人とヒグマの付き合い方も変わってきました。しかしここに集う子ども達の笑顔や自然の中で生きる術を学ぶ知床自然教室スピリットは今も変わらずに脈々と受け継がれています。

## 1 私たちはどこまで知っているのか

# ヒグマの生息数 推定に挑む



## 実はよく分かっていない、知床のヒグマ生息数

「知床にヒグマは何頭いるの？」これは誰もが抱く素朴な疑問でしょう。しかし現時点では、正確な数字はよくわかつていません。これまでの調査努力量では「100頭から1,000頭の間くらい」としか正直わからなかったのです。一方、住宅地や農地に出てきて被害を及ぼすようなヒグマは、知床であっても捕殺せざるをえない場合も多々あります。その結果、近年の知床半島内では交通事故等も含め年平均37頭のヒグマが、人為的理由によって命を落としています。

「こんなに死んでいて、知床半島のヒグマの集団は将来ちゃんと存続できるの？」

知床のヒグマ関係者が危機感と共に抱いていた疑問を解消するため、環境省の環境研究総合推進費による研究プロジェクトが2019～2021年度の3年計画で始まりました。私たちは北海道大学や北海道立総合研究機構と共同で、この困難かつ膨大な労力を必要とする調査に取り組んでいます。具体的には、半島内の63カ所に設置した「背こすりヘアトラップ」というヒグマの体毛を採取するための装置を、2週間に1回の頻度で計10回巡回した他、半島内各地で新鮮なクマ糞を拾い集めました。それらの遺伝子解析の結果、2019年には知床半島に少なくとも350頭のヒグマが生息していたことが判明しました。数理生態学の専門家による詳細な分析により、一度も私たちの調査の網にひっかからなかったヒグマも含めた、より正確な推定生息数が2021年度には示される予定です。

※環境研究総合推進費「遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発」による事業の一部として実施されています。  
詳細な事業内容については SEEDS 2020春号 をご覧ください



## 2 知床の生態系を保つために

# エゾシカの頭数を 空から数える

上空から知床半島のエゾシカの頭数を数える調査を2011年より環境省から受託し、毎冬実施しています。雪の大地で越冬するエゾシカを探し、ひたすら数えるシンプルな調査ですが、職員は乗り物酔いや高所の恐怖と戦いながらヘリコプターに乗りこみます。この地道な調査の結果は、エゾシカの個体数調整事業の成果をはかるための重要な指標の1つとなっています。



## 3 人とヒグマ、共生の道を探る

# 知床周辺エリアの ヒグマ生息状況を調べる

10 years  
project



2018年から網走市より依頼を受け、同市内のヒグマ生息状況を調べています。網走市は斜里・羅臼と同様に市街地の周りが農地や森に囲まれており、ヒグマの目撃情報も毎年のように寄せられます。網走市の実情に合ったヒグマ対策を確立するため、自動撮影カメラの設置やヒグマ糞の分析調査を進め、データを集めています。また2019年には調査だけでなく、ヒグマの生息実態を伝え、住民の取るべき対策を考えるための市民向け講座も開催しました。



## 4 知床をよりよい国立公園に 海外の国立公園に学ぶ

10 years  
project

2019年9月、職員1名をカナダの国立公園に2週間派遣しました。カナダと知床では規模こそ違うものの、利用者のコントロール方法や野生動物と人との軋轢など、共通する課題があります。カナダにあって知床ないもの、その中で知床にも応用できるものはないか。カナダの複数の国立公園を巡りながら先進的な利用システムやトレイルサイン、利用者へのアプローチ手法などを吸収してきました。



## 1 かつての知床の森を取り戻すために 多様性のある森を目指して

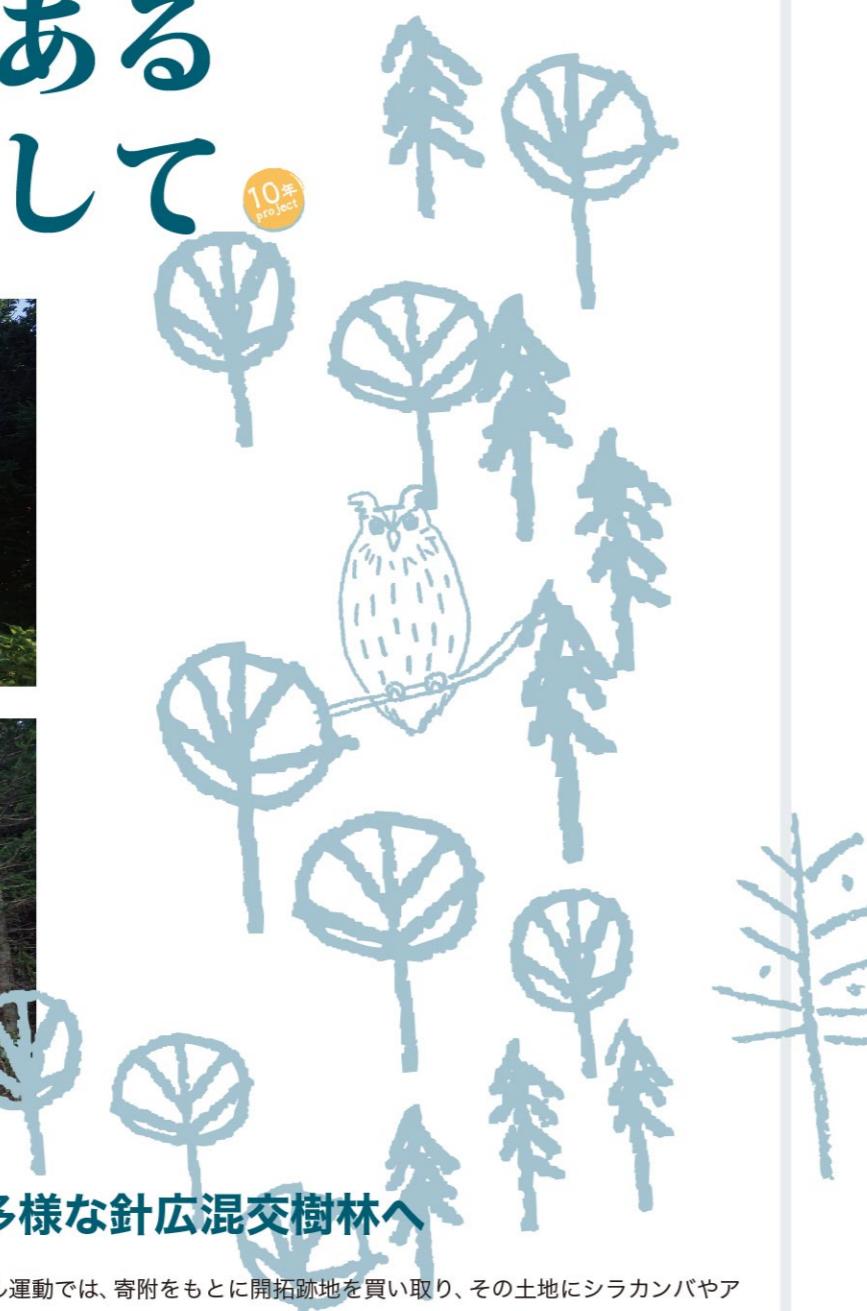


### アカエゾマツ造林地を多様な針広混交樹林へ

1977年に始まったしれとこ100平方メートル運動では、寄附をもとに開拓跡地を買い取り、その土地にシラカンバやアカエゾマツなどの苗木を植えてきました。その数は、運動開始から20数年間で42万本になります。しかし、現在運動地の各所にはアカエゾマツの森が広がり、同時に植えたシラカンバの姿は見かけません。その原因是エゾシカです。シラカンバの多くは当時数が増えつつあったエゾシカに苗木の段階で食べられてしまい、結果、シカの好まないアカエゾマツなどの針葉樹だけが残り、やがて樹高10メートルを超えるアカエゾマツの森となったのです。

同じ種類の木々が直線的に並んで立並んでいる姿は、本来の知床の森の姿とは異なるため、知床の森づくりでは、このアカエゾマツ造林地を知床本来の”針広混交林”的な森へと転換していく計画を進めています。具体的には、造林地の一部を切り開き、ミズナラやハルニレなどの広葉樹が生育できる環境を作る作業です。2019年度には、より広い面積を切り開いていくために、初めて大型重機を投入しアカエゾマツ造林地の切り出し作業を行いました。

重機によって造林地の改変を大規模に進めることになった背景には、個体数調整事業によってエゾシカの生息数がある程度減少したことが挙げられます。将来的には、この場所に人の手で植えた苗木や自然の種子散布によって様々な木々が育ち、単調な森から多様性の高い森へと移り変わる構想を描いています。



## 2 ヒグマが壊せないゴミステーション “とれんベア”をウトロの町に増設

ヒグマが手を出せない、壊せないゴミステーションを知床・ウトロの町に増やすためにクラウドファンディングを立ち上げ、2019年春にヒグマ対策ゴミステーション「とれんベア」を3基増設することができました。とれんベアは生ごみに餌付いてしまう危険なヒグマを生み出さないために開発されました。クラウドファンディングにご寄附いただいた全国の皆様に改めて御礼申し上げます。



## 3 ヒグマとともに暮らせる町に 羅臼の住宅地周辺の草刈りを実施



羅臼町では2018年に続き、飼犬がヒグマに襲われる事件が発生しました。住宅の周りに生い茂るヤブはヒグマにとって恰好の侵入経路になるだけでなく、潜伏したヒグマの発見を困難にします。たかが草刈りですがヒグマと密接に暮らす知床の住民にとっては大事な活動です。町民の皆様と知床財団の草刈りは2020年以降も続けていきます。

## 4 「つながり」で森をつくる 企業との森づくり

ダイキン工業株式会社様と、斜里町、羅臼町、知床財団は四者協定を結び、知床の森づくりや世界自然遺産の価値を次世代に伝える活動を行っています。同社からのご寄附は2011年より継続、年に2回実施している社員ボランティアは2020年2月で17回目になりました。2月のボランティアでは凍てつく寒さの中、慣れないスノーシューを履きながら木を切り、運び出すという重労働を行っていただきました。知床の森はこうした人と人のつながりにも支えられています。



**1 KINETOKO で出会う、はじめての知床  
オリジナル2作品、ついに完成**

Shiretoko World Heritage

Shiretoko Goko Field House  
Shiretoko National Park Nature Center  
Rausu Visitor center

Rusa Field House

10年 project 10年 project

ここから始まる  
あなたの知床は、

**知床の冒険**  
ADVENTURE OF SHIRETOKO

THE LIMIT

世界自然遺産・知床で交差する2つの極、震と人間の共生のリミットとはー。  
KINETOKO

4K上映で体験する世界自然遺産 知床 KINETOKO

**ゲートウェイとしての知床自然センターを目指して**

2018年から始まった知床自然センター、メガスクリーンKINETOKOのオリジナル映像製作プロジェクトがついに終了し、今津秀邦監督により2年間の月日をかけて撮影された素材の数々は「知床の冒険」「THE LIMIT」という作品として2020年春、知床に誕生しました。作品の誕生にあわせて映像機器も一新され、4K映像、5.1chサラウンドによる臨場感あふれる作品上映が可能になりました。

「知床の冒険」は、31年間知床自然センターの顔として上映され続けてきた「四季・知床」に替わる作品として生まれ、春夏秋冬の季節の移り変わりとともに知床の陸海空が余すところなく映し出されます。

「THE LIMIT」はヒグマと人が今、知床で歩んでいる道を淡々と描き出し、その距離感について問題提起します。正解は何なのか、答えは出るのか、出口のみえないヒグマと人との関係について深く考えさせられる作品に仕上がっています。

製作は斜里町の事業として進められ、知床財団は作品制作の過程において知床の野生動物対策の現場からの情報提供や、知床の季節の旬を現地からリアルタイムに監督へお知らせする役目を務めました。また、地域の声を反映する場として町民向けの試写会も毎月一回実施し、そのコーディネート役を担いました。

国立公園の入口に位置する知床自然センターは、園内へと向かうビジターをまず初めに受け入れ、知床を楽しむための情報を提供するためにあります。そのゲート機能を十分に発揮するため、施設内部のリニューアルから始まり、駐車場の整備、上映施設内の座席総入れ替えなど数年にわたって様々な改革が実施されてきました。KINETOKOの上映作品を一新する今回のプロジェクトもその一環です。

知床が名実ともに世界に誇る国立公園、世界自然遺産としてこの先も人々に愛され続けるために、知床自然センターがその要となることを私たちは目指しています。

**2 知床の魅力を世界に発信  
ゴールドウイン共同プログラム始動**

THE NORTH FACE / HELLY HANSENの運営会社であるゴールドウインと知床財団の共同プログラムを2019年度から始めました。全4回のプログラムには地元の方々ばかりではなく、全国各地からもご参加いただきました。第1回は知床財団の森づくりスタッフが開拓時代の面影を残す森を案内し、散策後には館内のBARISTART COFFEEの特製ランチを参加者の皆さんといただきました。知床を拠点に活動する仲間として、これからも魅力あるプログラムを企画し共に続けていきます。

① HOROBETSU HIKING ~森づくりスタッフと歩く「開拓の道」~ (6/22)  
 ② WILDERNESS HEALING WALK ~幻の沼「ポンホロ沼」へ行く~ (7/27)  
 ③ "SAKE" WATCHING TOUR ~「日本一の鮭」の水揚げ・遡上を見学、ランチを楽しむ~ (9/28)  
 ④ ICE WALKING ~漁師と歩く知床の海~ (2/23)

**3 アウトドア文化を知床から  
知床アウトドアフィルムフェス 2019**

「アウトドアを文化に。」をスローガンに知床自然センターで始まった知床アウトドアフィルムフェスは2019年で2回目を迎えました。初回に続きパンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバル開催のほか、世界を旅するスキーヤーのフィルムトークや台湾出身の歌手Eri Liaoさんによるピアノ弾き語りライブなど新たなプログラムも加わりました。また100平方メートル運動で毎年秋に行っている森の集い(植樹祭)も初めて共同開催しました。

**4 いろいろ話そう、私たちの地域のヒグマのこと  
羅臼で「クマ端会議」初開催！**10年 project****

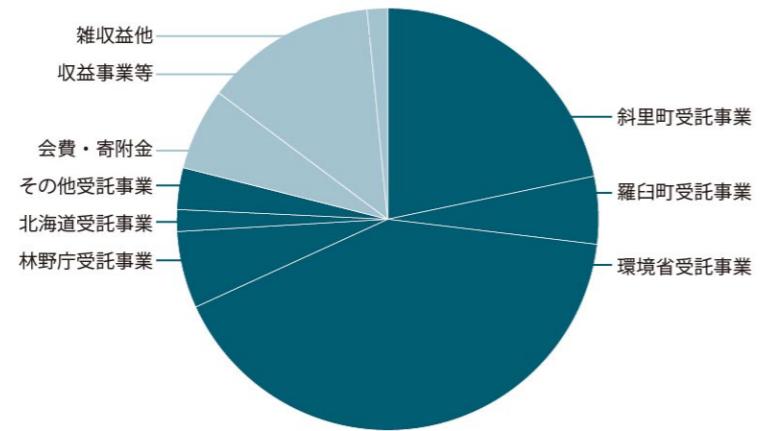
私たちと隣合わせに暮らす知床のヒグマについて住民の皆様とざっくばらんに語る、井戸端会議ならぬ「クマ端会議」を羅臼で実施しました。斜里町では2013年から続けていますが羅臼では初開催でした。ヒグマと共に暮らすためには住民の方の理解と協力が不可欠です。ヒグマを正しく理解していただき、住民の方の意見を直接聞く場としてこのクマ端会議は私たち職員にとっても大切な機会であり、これからも続けていきます。

## 事業収支

2019年度の経常収益は、3億5,908万円でした。そのうち約8割を事業収益が占め、その大半は行政機関からの受託事業による収益でした。  
賛助会費や寄附金はもちろん、物品販売・講演・実習受入などの収益事業は、独自事業を実施するための貴重な財源になっています。

### 2019年度 経常収益内訳

	(千円)
斜里町	78,000
羅臼町	18,606
環境省	148,194
林野庁	21,164
北海道	6,006
その他	11,470
会費・寄附金	22,599
収益事業等	47,434
雑収益他	5,605
経常収益計	359,079



### 2019年度 主な受託事業一覧

#### ■ 斜里町受託事業

- 知床自然センター他指定管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
- しれとこ100平方メートル運動ホームページ改修等業務

#### ■ 羅臼町受託事業

- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
- 羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務

#### ■ 林野庁受託事業

- 知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業
- 知床におけるエゾシカ誘引捕獲等事業(囲いわな等)
- 知床におけるエゾシカ誘引捕獲等事業(巻狩)
- サケ科魚類遡上状況調査業務

#### ■ その他受託事業

- 網走市ヒグマ生息実態調査業務
- 網走市エゾシカ生息状況調査業務
- 環境研究総合推進費・研究共同実施事業
- カムイワッカ地区自動車利用適正化対策実施に伴う現地管理連絡調整等業務
- 知床五湖当日受付カウンター運営業務



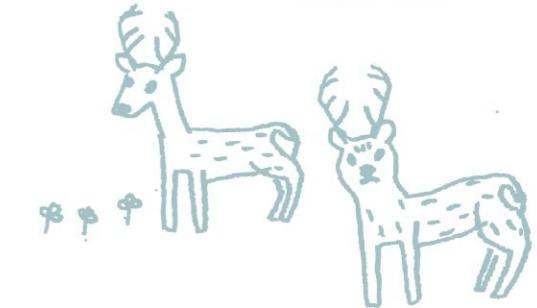
## いただいたご支援

お寄せいただきました一般寄附金は847万7千円、指定寄附金は800万円でした。  
ご支援いただきました皆さんに心より御礼申し上げます。

### 2019年度 寄附をいただいた主な法人

	(円)
アサヒビール株式会社	100,000
株式会社北日本新聞社	50,000
桑島アジェンダ基金(指定寄附)	300,000
斜里町内の企業(指定寄附)	1,000,000
知床オプショナルツアーズ SOT!	30,000
ダイキン工業株式会社(指定寄附)	5,000,000
株式会社ティンバーテック	200,000
株式会社日米商会(指定寄附)	1,000,000

カールルツアイス株式会社	双眼鏡ほか無償提供
日本グッドイヤー株式会社	タイヤ無償提供
三井化学グループ	ツリーデッキ塗料ほか無償提供 (五十音順・敬称略)



### 企業とともに知床のために

#### ① コラボレーション商品の開発

アウトドアメーカーをはじめ、地元や道内の作家など「知床を知り・守り・伝える」活動に賛同してくださる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業の重要な財源となります。



2011年より続いている(株)フェニックスとのコラボレーションTシャツ



羊毛でものづくりをしている「ふしげのくにものづくり工房」とコラボレーションしたケイマフリポーチ



双眼鏡の提供(カールルツアイス株式会社より)



公用車のタイヤの提供(日本グッドイヤー株式会社より)

#### ② 物品のご提供

ヒグマ対策や野生動物調査などの日常業務においてウェアや装備、車両は欠かせないものです。2019年度は双眼鏡やタイヤなど現場で活用する物品類をご提供いただきました。



## 賛助会員

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2019年度は新たに120名、11団体の皆様にご入会いただきました。皆様の温かいご支援に厚く御礼申し上げます。

### 2019年度賛助会員の状況

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別会員	総会員数
720名	1,084名	54団体	21団体	1,879件

### 2019年度 法人年会員

※青字は斜里町・羅臼町の法人会員

オリジナル設計株式会社 札幌事務所	札幌市	株式会社大石アンドアソシエイツ	東京都	株式会社ふれあい	石狩市
株式会社ユートピア知床	斜里町	ピックス株式会社	斜里町	有限会社川上水産	羅臼町
株式会社須田製版 鈎路支店	鈎路市	鷺の宿	羅臼町	大森ペット靈堂	東京都
ゴジラ岩観光	斜里町	田島公認会計士事務所	東京都	斜里バス株式会社	斜里町
知床オプショナルツアーズSOT!	斜里町	サージミヤワキ株式会社	当別町	ワイエスインターナショナル株式会社	東京都
有限会社みさき水産	羅臼町	株式会社小柳中央堂	北見市	株式会社キムラシステム	札幌市
有限会社赤岩水産	羅臼町	小野建設工業株式会社	羅臼町	株式会社アヤメ緑化工業	中標津町
羅臼漁業協同組合	羅臼町	有限会社丸大阿部商店	羅臼町	アリス動物病院	神奈川県
ウトロ漁業協同組合	斜里町	株式会社ケミクル	羅臼町	WOODLINK F&G	札幌市
オコツク漁業生産組合	斜里町	シティ環境株式会社	網走市	株式会社バリュープロモーション	東京都
株式会社辻中商店	羅臼町	知床ガイド協議会	斜里町	有限会社尾崎プロパティ	埼玉県
有限会社木切別漁業	羅臼町	C S E G 株式会社	東京都	合同会社クアッガ	東京都
峯浜水産有限会社	羅臼町	ファームエイジ株式会社	当別町	斜里建設工業株式会社	斜里町
有限会社知床ネイチャーカルーズ	羅臼町	羅臼石油株式会社	羅臼町	株式会社かんぽ生命保険 旭川支店	旭川市
有限会社らうす第一ホテル	羅臼町	医療法人社団鶴翔会つるい整形外科	東京都	斜里第一漁業協同組合	斜里町
株式会社秀岳莊	札幌市	土橋工業株式会社	斜里町	日本パトロール株式会社	愛知県
株式会社フェニックス	東京都	株式会社あらい	福岡県	株式会社雄美	千葉県
小川建設株式会社	羅臼町	安田商事株式会社	斜里町	株式会社もりのこうえん	静岡県

### 2019年度 法人特別年会員



## 会員の募集

私たちの活動を応援してくださるサポーターを募集しています。  
皆様から募った会費や寄附金は、例えば下の写真のような活動を通じて  
知床を未来につなげるために役立てられています。



知り

守り

伝える

### 個人

- 1年間応援 個人会員 5,000円/年
- 生涯応援 個人終身会員 100,000円/生涯

### 法人

- 法人特別年会員 100,000円/年
- 法人年会員 20,000円/年

入会、寄附の方法については知床財団の賛助会員のサイトをご覧ください。寄附も隨時承っております。→

知床財団への会費、寄附は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。



入会用サイト

## 組織概要

名称 公益財団法人 知床財団

設立 昭和63年(1988年)9月23日

設立者 斜里町・羅臼町

基本財産 4,500万円

所在地 〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地

目的 この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保护の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。

事業 (1)野生動植物の調査・研究

(2)自然保护の普及啓発

(3)自然保护に関する諸団体との連携

(4)自然保护の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務

(5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

職員 51名(2020年4月時点)